

ウクライナ危機と石油市場

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

化石エネルギー・国際協力ユニット石油グループ

森川 哲男

ロシアの石油輸出



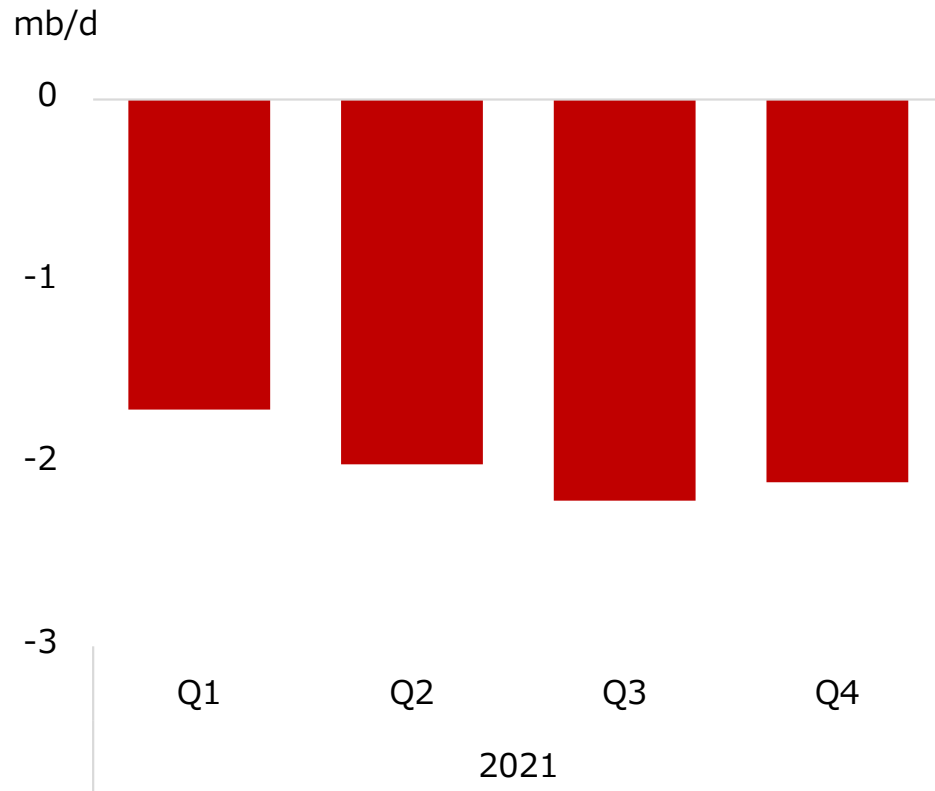
		mb/d		
輸出量	生産量	11.35	2022年1月	
	原油・コンデンセート	5.0	2021年12月	
		石油製品		2.8
	合計	7.8	2021年11月	
	内数	欧州向け		4.7
		中国向け		1.6
	日本向け	0.07	2022年1月	

出所: IEA、貿易統計

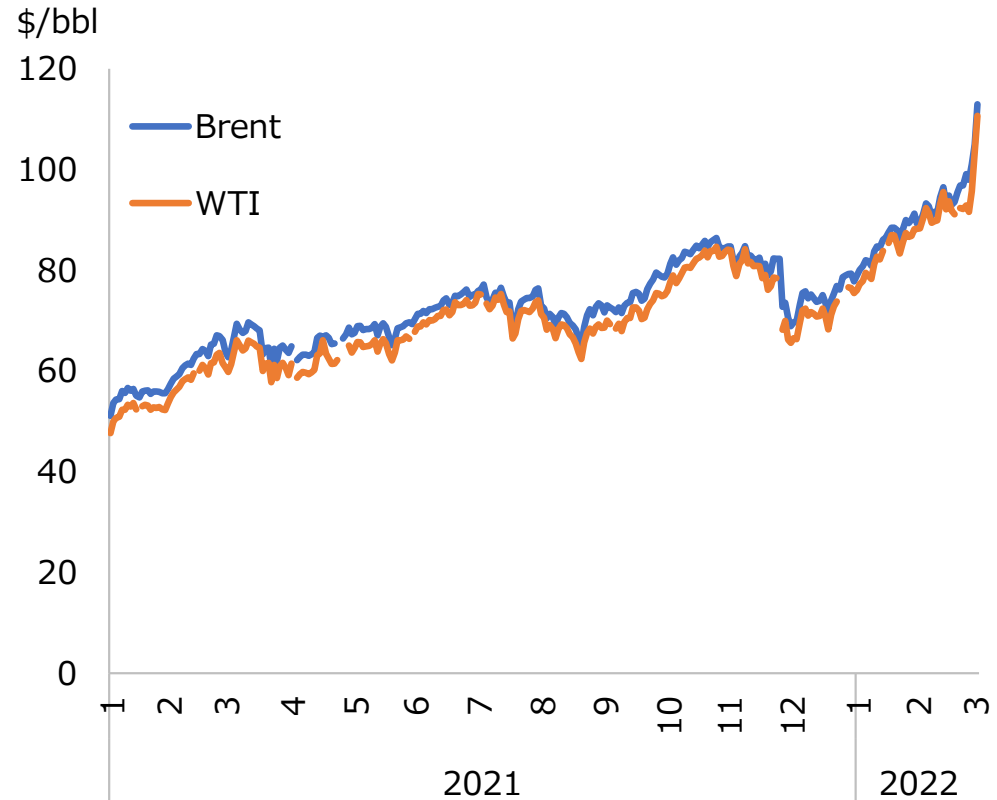
OPEC+と各国政府・企業の対応

- OPEC+ : 3月2日の会合では40万b/d/月の増産幅を維持。
但し、ロシアの生産量減少は必至。
- 西側主要国 : 対ロ制裁も対イラン制裁並みの強度には至らず。
 - 石油・ガス関連で残る制裁オプション : Swiftからの露銀行完全排除、
(カナダのように) ロシア産石油禁輸
- IEA : 6,000万バレル (200万b/d?) の備蓄放出を決定。
- 西側石油会社のロシア事業撤退相次ぐ。
 - Equinor : 西シベリア石油事業等撤退
 - BP : Rosneft株売却
 - Shell : サハリン2撤退
 - ExxonMobil : サハリン1撤退
 - Totalや日本企業への撤退圧力も
- ロシア産石油の買い控え増加。
- 中印の輸入がロシアの輸出減少程度のカギに。

需給バランス



価格推移



出所: IEA、CME、ICE

- 2022年に供給過多ポジションに転換する？
- Brent価格予想レンジは\$70-150。
- ウクライナ情勢だけでなく、イラン核合意再建、OPEC+減産方針、マクロ経済が大きな不確実性。